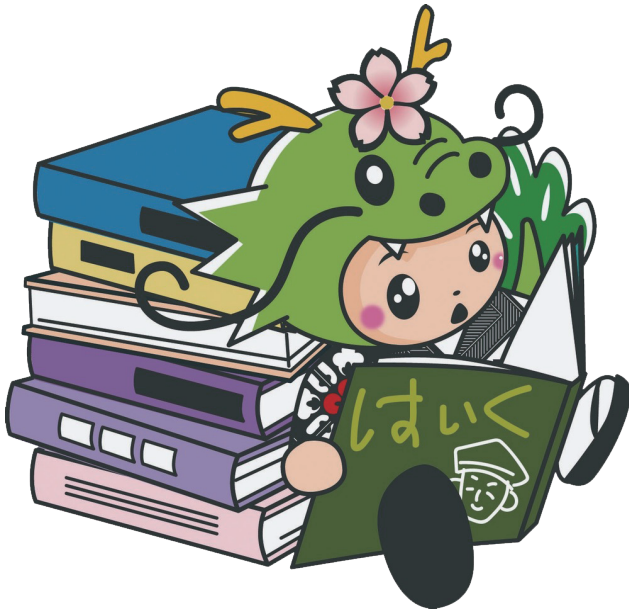


第23回

令和7年度

龍郷町 短歌・俳句・川柳コンクール 作品集



主催 龍郷町教育委員会

主管 龍郷町生涯学習センター りゅうがく館

後援 龍郷町文化協会・龍郷町短歌会『つわぶき』

龍郷町短歌・俳句・川柳コンクール作品集の刊行に寄せて

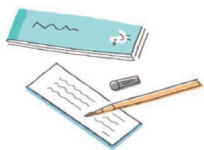
龍郷町教育委員会教育長 碓山 和宏

今年で二十三回目を迎える「龍郷町短歌・俳句・川柳コンクール」の作品集が今年も刊行できま
すことを大変嬉しく思います。

本町では、文化が薫るまちづくりの取組として、短歌・俳句・川柳コンクールや青少年ミュージカル「KIKUJIRO」、「たつごうエッセイコンテスト」等を実施しています。特に、ミュージカルについては、三月に友好都市であるさつ
ま町での公演を控えており、ミュージカルを通じた文化交流ができるものと
大いに期待をしているところです。このような取組を通して、感性豊かな子
どもたちや文化の薫りあふれる町民が育まれつつあることを嬉しく思います。

今年度も友好都市である菊池市へも作品の依頼をいたしました。その結果、
小学生の部に百四十三点、中学生の部に二十五点、計百六十八点もの素晴ら
しい作品が寄せられました。このコンクールや「菊次郎ミュージカル」等を
通して友好都市である菊池市やさつま町との文化交流が更に深められることを期待しています。ま
た、風光明媚な自然の美しさや季節の移ろいを表現することを楽しむ子どもたちや町民の育成にも
更に力を注いでいきたいと考えています。

菊池市教育委員会やこれまでご指導いただきました各小中学校の先生方、審査にあたっていただい
た先生方に心から感謝申しあげるとともに。この冊子が今後の小中学生並びに町民の創作活動の一
助になることを願ひまして、あいさついたします。



第二十三回 龍郷町短歌・俳句・川柳コンクール開催要項

1 【趣 旨】

短歌・俳句・川柳は、十七文字または三十一文字という短いことばのなかに、自然や人生観など折にふれてわきあがる人間の心をうたいあげた短い詩で、よむ人に想像力をはたらかせてくれる、生きた心がつまった文芸である。

このコンクールは、「教育・文化の町」龍郷町の教育施策の一環として、短歌・俳句・川柳に親しむことにより、町民の言葉の表現力を育み、情操教育により心豊かな人間性を形成するために実施する。

2 【主 催】

龍郷町教育委員会

3 【主 管】

龍郷町生涯学習センター りゅうがく館

4 【後 援】

龍郷町文化協会・龍郷短歌会「つわぶぎ」

【募集内容】

- (1) 対象者
小・中・高校生・一般
- (2) テーマ
自由（本人の創作による未発表の短歌・俳句・川柳とする。方言での表現も可。）
- (3) 募集枚数
小・中学生…一人二句・一首（「短歌・俳句・川柳」それぞれ一作品まで）
※学校においては、短歌・俳句・川柳ごとにまとめて提出してください。
高校・一般…一人二句・二首（「短歌・俳句・川柳」それぞれ二作品まで）
- (4) 募集期間及び発表
応募期間…令和七年八月一日（金）～令和七年九月三十日（火）
審査結果発表…令和八年二月（地元新聞・龍郷町ホームページ等に掲載予定）
- (5) 賞
①大賞…各部門一点（賞状・記念品・図書カード）
②優秀賞…各部門二点（賞状・図書カード）
③入選…各部門三点（賞状）
④奨励賞…各部門五点（賞状）
⑤学校賞…応募学校から団体表彰

短歌の部

大賞

氣付きづかずに

心こころにかける

色いろメガネ

白百合しらゆりばな花も

紅あかく見みえたり

龍郷町 久岡 久乃

人の内面は繊細で複雑、その時の状況によって様々に変化していくもの。

同じ対象物でも見る人それぞれに違いが出てくるのは当然で十人十色と言われるゆえんでもあるでしょう。

私達はともすると、物事を見て判断する時、これまでの慣習として心に色メガネをかけている事に気づかぬまま過ごしていることが多々あるのではないのでしょうか。その一例に適切な題材を上げてみます。

令和七年十月二十一日。日本中に激震が走りました。

日本の顔、代表者をなるべく総理大臣に女性初の「高市早苗氏」が選出されました。明治の初代総理「伊藤博文氏」以来歴代の総理は男性だと認識し、男性優位の社会が当たり前で疑う事無く受け入れられたこと自体が色メガネで、百年の時を超え漸く外されたと感じたのは歴史の証人である国民であり全世界の人々が驚きと称賛で関心を持ったことでしょう。

この作品は九月末日が締め切りなので歴史的瞬間に引用されることなど想像しなかつたと思いますが、見事に的を得た鑑賞の醍醐味と力量を感じる、大賞にふさわしい作品です。

優秀賞

六年の ろくねん 絆の きずな すべて にぎりしめ アンカーへわたす さいごのバトン

龍瀬小学校六年 岩元 羽優

こわいけど ゆうきをもって バク てん 転し いっしゅんのまに みなもなみうつ

菊池市立旭志小学校五年 清水 奏

自己 じこ ベスト その めくひょう 目標を 超 こ えるため 風 かぜ より速 はや く ゴール めざ を目指す

龍南中学校二年 福原依里亜

夏祭りなつまつ 空そらに飛とんでく あひだまの火玉 華か麗れいに彩いろどる 夜よぞら空ほうせきの宝石

龍南中学校二年 海津 春富

学がくランの 裾すその解ほどけし かきみの君や おみのが身み整とえ 喜き寿じゆ迎むかえけり

龍郷町 森田 啓子

ラッシエ時じに 妻つまの肩かたに手て シルバぎんいろー(銀色)の 杖つえをつく吾あを 避さけし人ひとあり

龍郷町 重原 勇夫

入選

きらきらと かがやく星を ちびさして 私わたしのなかの いちばん星ほしだ

大勝小学校四年 中 ヨあ

秋あきが来た き ピーピーと鳴なく わたり鳥どり つばさを広ひろげ 奄美観光あまみかんこう

大勝小学校四年 二瓶 和

けいろう会かい もうすぐすもうの たい会かいだ ぼくはまいにち はつけよいよい

戸口小学校二年 中村 晃太

冬景色ふゆげしき 思おもい出だすのは 伊勢参りいせまい 祖父母そふぼと行いった 僕ぼくの思おもい出で

龍南中学校一年 長谷場 優

ガチガチに 震える手足 声出せば 魔法みたいに 解ける緊張

龍南中学校二年 奥野あいら

授業中 ふざけていたら 後ろから いつもと違う 先生の視線

龍南中学校二年 ロレンス由庵

風鈴の 音色優しく 癒されて 励ましの声 響き渡りて

龍郷町 辺木 早苗

リニエール 柱の印 見納めて 心に残る 子らの面影

龍郷町 徳島小夜美

朝霧や カチカチ米の 炊く音に 今日の活カ 湧き出でにけり

龍郷町 中崎 愛子

奨励賞

冬景色 ふゆげしき 銀嶺となる ぎんれい この町も まち 冬にもならば ふゆ 景色も凍てる けしき

菊池市立旭志小学校六年 岩永 愛斗

夏休み なつやす セミもミンミン あつすぎる あせもどばどば のめるくらい

菊池市立旭志小学校五年 村上ゆいか

わたしたちの でんとうぎょうじ ショチヨガマ チジンの音が おと 山にひびく

秋名小学校二年 楠元 花英

夏の海 なつ うみ 光りかがやき ひか まぶしいよ 見ているぼくら み ひとみもかがやく

戸口小学校六年 河波 理仁

庭にわに出でて 花はなを一輪いちりん つんできた ビタミンカラーに 元げん氣きをもらう

戸口小学校四年 朝 椋平

ハイタッチ ペアと一緒いっしょに 掴つかみ取る 目め指させ優勝ゆうしょう 記き録ろく更こう新しん

龍南中学校二年 東田いちか

夏休なつやすみ 家かぞく族ぞくみんなで 船ふねで行いく 一いっしょ緒とに飛とんでる とびうおたちと

龍南中学校二年 牧主 杏樹

夏祭なつまつり 暗夜あんやの空そらに 開花かいかした 視線しせん集あつめる 大輪たいりんの花はな

龍南中学校二年 内野 灯

ふかすいふか なみ ひかり 波と光を なみ ひかり ステージに こよいま 今宵舞うのは ゆうび くらげ 優美な海月

龍南中学校三年 内野 歩

星空に ほしぞら 輝く光 かがや ひかり 眺めつつ なが 心に秘める こころ ひ あの日の思い ひ おも

龍南中学校三年 最上 佑樹

若い頃 わか ころ 父は満州に ちち まんしゅう 行ったのか い 遺品の軍服 いひん ぐんぷく 虫干しをする むしほ

龍郷町 南 林子

空の旅 そら たび 百日祝い ひやくにちいわ 夫と我 つま われ 春日大社へ かすがたいしや 健康祈願 けんこうきがん

龍郷町 生野 明美

移住して
速や十四年
島人に
島の文化や
足るを知りたり

龍郷町
堀内ケイ子

父母の歳
越えて親しむ
歌の時間
エアコン涼しや
猛勉強

龍郷町
最上
愛子

きらきらと
光るわたしは
幾里で
稽古重ねて
行くぞ県体

龍郷町
徳島
美穂

審査講評

審査員 平 義隆・柳田 明子

〈短歌の部・小学生〉

- ・ 作品の中に作者の意気込みが感じられてほほえましい感じがした。
- ・ 難解な語句を使用し、擬人法や独特の言い回しなどレベルの高さを感じた。
- ・ 叙事と自分の心情をうまく対比させている作品もあった。
- ・ 物事をよく観察し小学生らしい発想の作品もあった。
- ・ 友達や家族とのほのぼのとした関係性を想像させる作品もあった。
- ・ 前後のつながりが悪く、表現の工夫を要する作品もあった。
- ・ 夏の作品が十七首もあり年間を通した作品が良い。
- ・ 字数不足の作品もあり、五七五七七の原則を守ってほしい。

〈短歌の部・中学生〉

- ・「夏」を題材にした作品が二十九点もあった。
- ・ 比喩の仕方に工夫をしている作品もあり好感をもった。
- ・ 対比の仕方に工夫しレベルの高さを感じた。
- ・ 前後のつながりが悪く一貫した表現の工夫が必要な作品もあった。
- ・ 終わりが五字で終わった作品が八点もあった。提出前の校正が必要。
- ・ 作者の意気込みや感情がよく表現されている作品もあった。

〈短歌の部・高校、一般〉

- ・ 自分の感情を事象に例えて表現している。
- ・ 社会的に話題性の多い出来事の商品もあった。
- ・ 作者の願いや期待が赤裸々に表現されている作品もあった。
- ・ 前後のつながりをもっと重視してほしい。語句を一字変えたら良い作品もあった。
- ・ 「や」「かな」「けり」「ぞ」などの強調する語句をもっと欲しい。

○総評

- ・ 友達や家族愛などが言外に感じられ、人間関係の素晴らしさを感じた。
- ・ 観察眼よろしく、物事をよく見詰め表現している。
- ・ 時期的に「夏」を題材にした作品が多かった。
- ・ 叙情的で読む人に言外でわからせようと工夫している。
- ・ 難解な語句を使用し、語彙力の豊富さに感心させられた。
- ・ 前後のつながりを重視してほしいと感じた。
- ・ 語句の入れ替えを工夫すればもっと良くなる作品もあった。
- ・ 提出前に字数の確認をしっかりとってほしい作品も数点あった。

俳句の部

大賞

波^{なみ}しぶき

夏陽^{なつひ}をかすめ

ボード舞^まう

龍南中学校三年 渡 愛翔

ボードはサーフボードのこと。サーフィンに使う長円形の板。ゆっくりと沖へ漕ぎだし、高い波を待つてボードの上に立ち上がり、バランスを取り、波に乗って進むときの爽快感は、映像を見るだけでは決して得られない。

波しぶきを浴びてボードは進む、波の高さは夏の日をかすめるほどの高さだという。「ボード舞う」に高揚感が見て取れる。夏の一日、少年は一步も二歩も大人へと近づきました。

優秀賞

あきのかぜ すこしさみしき やつてくる

龍瀬小学校五年 岩切 琉

なつのそら くものぶらんこ のりたいな

戸口小学校一年 すずきゆいと

消えた野菜 そのとなりには ぷくぷく青虫

龍南中学校一年 山口 莉央

その一音 努力と汗の 結晶だ

龍南中学校三年 内野 歩

タカ柱 大空ゆうゆう 季は巡る

龍郷町 柳田 政廣

水溜り 遙か彼方の 夕月が

龍郷町 重原よし子

入選

あかあおき(赤青黄) しんごうきだよ みにとまと 龍瀬小学校一年 山名 奏一

種下ろし 秋の実りを 願うなり 龍瀬小学校五年 横尾 碧人

クワガタが カゴからにげて たびにでる 秋名小学校一年 もとやまはると

風鈴や 涼しきしらべ 風の声 龍南中学校二年 小牧 義郎

夕立が やんで笑って 缶けった 龍南中学校三年 赤尾 幸大

日向葵と 空にこぼれた ミキの雲

龍南中学校三年 平 果穂

出勤印 ヤモリが先に 墨絵花

龍郷町 川良 貴幸

諍わず 八十年和み 葉月来し

龍郷町 重田シオリ

あたたかい 桜下街が 包まれる

匿名希望

奨励賞

かがやいた
ほたるのひかり
まぶしいな

菊池市立泗水小学校六年
田代 裕翔

お盆ぼんの日ひ
けむりがあがる
墓はかの上うえ

菊池市立旭志小学校六年
三池 杏

クツカルは
わたしのなつの
目覚めざまし時計どけい

大勝小学校二年
もりやまあずさ

そうめんが
竹たけのすべり台だい
たのしそう

秋名小学校二年
楠元 花英

ひさしぶり
小さちいくなったの
おばあちゃん

秋名小学校五年
楠元 杏

とおい空そら 探しそらに行こうい
七色なないろを

菊池市立七城中学校三年 吉良 侑菜

炎天下えんでんか 白熱はくねつバトルの 甲子園こうしえん

龍南中学校一年 中村 賢三

甲子園こうしえん いつか立たつぜ 夢ゆめのぶたい

龍南中学校一年 押村 桃汰

二度目にどめの夏なつ 波なみの音ね色いろも なじみけり

龍南中学校一年 五代 奏海

カラコロと 揺ゆれるラムネ玉だま 夏模なつも様よう

龍南中学校三年 矢野りりこ

炎天下 えんでんか
白球矢のごと はつきゅうや
甲子園 こうしえん

龍郷町 堀 悦子

庭先の にわざき
トマト鈴なり すず
母の味 はは あじ

奄美市 肥後由紀子

春の山 はる やま
黄緑 きみどり
緑 みどり
青緑 あおみどり

龍郷町 南 林子

浜下れの はまお
ゆらいもてなす
蚊遣かな かやり

龍郷町 堀内 紀子

煌いて きらめ
天空かける てんくう
大花火 だいはなび

龍郷町 森田 啓子

審査講評

審査員 緑沢 克彦・庵崎 京子

〈俳句の部・小学生〉

コウモリ、金魚、セミ、イルカ、カラス、カブト虫、ほたる、トカゲ、クツカル、かたつむり、すず虫、バッタ、くも、ハブなどいっぱいものを見て、その動きや自分とのかかわりを俳句にしてみました。

また、種おろし、お盆、お墓参り、夏祭り、花火など、地域の人々との触れ合いや家族との触れ合いを詠んでいることに、ほほえましさを感じました。小学生の皆さん元気に育ってください。

〈俳句の部・中学生〉

中学生は夏休みに入っても部活や習いごとで、ほとんど休みがない毎日。その中で切磋琢磨し、友達との友情を育んでいることが多くの作品から伝わってくる。

甲子園への憧れ、自然の中で過ごすとき、中学生の感情が磨かれる。中学生時代は短いです。仲間とスポーツや勉強に大いに取り組んでください。エールを送ります。

〈俳句の部・高校、一般〉

作者の俳句に対する真剣な取り組みが実を結び、粒のそろった作品が並びました。

「出勤印 ヤモリが先に墨絵花」はヤモリの指紋を墨絵花と捉えたところが見事です。意外な言葉は読む人を惹きつける。句作の要点の一つにインパクトのある言葉を選ぶこととあります。

右の事とは反対に優しい言葉を並べながら、そのリズムで読者を魅了したのが「あたたかい桜で街が包まれる」の句。読者は何も考えずにこの句に包まれる。

○総評

全体的に句の対象が広がったように感じました。

菊池市の皆様も参加しておられるので楽しみです。俳句は基本的に五七五で季語を入れて情景を詠むことです。

それによって読み手にもしっかり伝わってきます。

川柳の部

大賞

食欲しょくよくは

正常せいじょうですと

医師いしにい言いう

龍郷町 堀悦子

この川柳の面白さは、「食欲は正常です」という表現から出ているのでしょうか。普通、食欲は、と聞かれたら「あります」とか「ありません」とか言うところです。

正常の反対は異常です。

この作品の詞書きにもあるとおり、お医者さんとのやり取りです。血圧は高い、足も痛い、他にも血糖値はどうですか、中性脂肪は等々、いろいろ医師との会話があつたのかもしれない。

特定検診、長寿検診などでいろいろデータが示されます。そしてそれが正常値であるのかどうかということが指摘されます。正常かそうでないか、いろいろデータの中で生きているわけです。

「食欲は？」と聞かれて、ついつい思わず「正常です」という言葉が飛び出してきたのでしょうか。もちろん本人はふざけているわけではないでしょう。真面目に受け答えをしているはずですが、そこに何とも言えないおかしみ、ユーモアの感じられる秀作です。

優秀賞

いつの日や

世界の平和

僕の夢

赤徳小学校六年

レイス 渡和

Aーは べんりだけれど あいはない

赤徳小学校三年

四位 悠真

炎ゆる日に

涼む溪谷

光る声

菊池市立七城中学校二年

宮崎みづき

ババ引いた

ワンマン関税

遂行者

龍南中学校三年

崎田 乃愛

ハゲバードウ トウリンハギカデイ(とりあしたの足食べて) サシバナヌデイ(サシバ飲んで)

奄美市 徳山恵美子

星条旗 星のひとつは 日本州(せいじょうき ほし にほんしゅう)

龍郷町 重原よし子

入選

勉強 べんぎょう がんばるわたし すてきだね

大勝小学校四年 はまさきはな

どうもろこし おしくらまんじゅう くるしそう
秋名小学校二年 楠元 花英

ドキドツキン とんだしゅんかん 海の中 うみ なか
秋名小学校二年 たつみやなみ

海 うみ の空 そら 龍郷 たつご の青 あお さを 観 み てみたい
菊池市立七城中学校二年 隈部百利乃

いつもゲーム ふと思 おも い出 だ せば 出校日 しゅつごうび
龍南中学校一年 山口 央聖

備蓄米 びちくまい
おいしさ価格 かかく
ありきたり

龍南中学校二年 安田 斗輝

八十路来て やそじき
怖いもの無し こわ
アウト老 な ろう

龍龍郷町 坂井 文麿

ギャルの群れ む
点字ブロック てんじ
陣取り じんど

龍郷町 重原 勇夫

秋の夜に あき よ
季節外れの きせつはず
サガリバナ

龍郷町 南 千明

奨励賞

こめたか
米高い どうにかしてよ
こいずみ
小泉さん

龍瀬小学校六年 則岡 那奈

かえるかな
いけ
池にとびこむ
みず
水の音 おと

大勝小学校三年 松元 颯佑

かつこよく わたしはおどる
ダンサーだ

大勝小学校四年 中 ゆあ

アイスたべ おくちのなかは
ふゆみたい

秋名小学校一年 もとやまはると

なつやすみ どきどきはらはら
さいしゅうび

戸口小学校二年 ふくはらあかり

宝くじ たから
次こそ当たる つぎ
何回目 なんかいめ

龍南中学校一年 岩切 奈袖

夜な夜など よ
下手な三味線 へた
響く家 ひび

龍南中学校一年 五代 奏海

宿題を しゅくだい
明日やろうと あした
後まわし あと

龍南中学校一年 牧主愛玲菜

夏休み なつやす
遊びつくすぜ あそ
宿題は？ しゅくだい

龍北中学校三年 安宅 湊陽

夏祭り なつまつ
行けはするけど い
物価高 ぶつかなか

龍北中学校二年 五十嵐友弥

赤ん坊あかぼう 足を蹴り上げあしけあ サッカーだ

龍郷町 南 林子

蒼穹にそうきゆう 懸垂すればけんすい 天近してんぢか

龍郷町 川良 貴幸

測る度はかたび 目盛縮まるめもりちぢ 身長計しんちようけい

龍郷町 重田 シオリ

ランドセル 夢希望入れゆめきぼうい 一年生いちねんせい

龍郷町 堀内 ケイ子

結婚だけつこん 仲人さんなこうどは Aーよ

龍郷町 堀 悦子

審査講評

審査員 別府 義廣・徳永 由美子

〈川柳の部・小学生〉

小学生らしいまっすぐ素直な心で、物事や景色、時代を切り取っていると感じた。それが、確信を突き、皮肉や苦笑を生むのだろう。出品数も多く、題材もバラエティに富み、これから求めるとすれば「が」なのか「は」なのか言葉や言い回しにもっとももっとこだわってほしいと思う。

〈川柳の部・中学生〉

中学生になると一つ一つの言葉にこだわりがあり、表現に深みが出てきたと感じる。読み手は自分の経験と重ねて、それぞれの受け止め方をするだろう。それが世の中の多様な見方につながっている気がする。これから求めるとすれば、もっともっと周りを見てそのすべてが題材になることを楽しんでほしいと思う。

〈川柳の部・高校、一般〉

さすが大人の作品。読み応えのある作品ばかりでまさに甲乙つけがたいという印象でした。テーマも老いのこと、令和の米騒動のこと、世界を振り回すトランプ氏のこと等々多岐にわたり表現技法も掛詩、名詞止め、対比など工夫の跡が伺える作品が多かった。

○総評

五・七・五のリズムに乗せれば、この世のありとあらゆる現象（もの、こと）は、川柳の題材になりうるということを感じさせる作品が多くありました。昨年度より応募数も増えているようですね。うれしいことです。今後ますます川柳人口が増えることを期待します。

感謝

